

2011年度

科目名	薬物投与設計学				
担当教員	村上 正裕、小西 廣己				
配当	薬学6			コード	80791
開期	集中前期	講時	集中0限	単位数	2
授業テーマ	【選択】 臨床において薬物治療を最適化するための薬物投与設計に必要な実践力を養う。				
目的と概要	〔目的〕様々な臨床状況下で患者の病態・背景を考慮して適正な薬物投与設計を行うための知識・技能を習得する。 〔概要〕臨床において医師が行う処方設計を支援することは薬剤師の重要な職務である。又、その最適化は患者のQOLの向上に寄与する。本科目では、体内薬物動態に関する生体側の要因及び薬物側の要因に関する知識を基礎に、個別の疾患や患者背景のもとで最適な用法用量を設定したり、PK／PDに基づき相互作用を回避するなどの投与設計を行う際に必要な知識・技能を、講義及び演習、SGDを通じて習得する。				
成績評価法	課題及びレポート(70点)、平常点(30点)とする。なお、平常点は出欠及び小テストの成績を含めた授業への取り組みを総合して評価する。				
テキスト	配布資料				
参考書	ウィンターの臨床薬物動態学の基礎／樋口駿監訳／じほう社 標準医療薬学・臨床薬物動態学／澤田康文編／医学書院 改訂薬物動態学／高田寛治著／薬業時報社				
履修に当たっての注意・助言／準備学習	補助教員：堀切勇児 本科目は、薬剤学Ⅱ、薬物動態学Ⅰ及びⅡで学習した内容を基礎とするアドバンスド科目である。 授業は、5年次で10回終了しているため、6年次では前期に5回実施する。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	PK/PD理論の実践活用 (担当：小西)	1.PK/PD理論の基本的概念を理解できる。	独自	知識・技能
			2.抗生物質の処方設計に対してPK/PD理論が活用できる。	独自	知識・技能
			3.心不全治療薬の用量設定に対してPK/PD理論を応用した実践例を理解できる。	独自	知識・技能
2	講義・演習	TDMに基づく処方設計の実践 (担当：小西)	1.医療現場におけるTDMの意義を理解できる。	独自	知識・技能
			2.処方設計に際して、服薬歴の重要性や相互作用に関する留意点を認識できる。	独自	知識・技能
			3.初期用量の重要性を認識できる。	独自	知識・技能
			4.薬物タンパク結合と臨床検査値との関連性を理解できる。	独自	知識・技能
			5.有効血中濃度域を適切に解釈した上で処方設計ができる。	独自	知識・技能
			6.薬物血中濃度の異常値に対する考え方とその対処法を養う。	独自	知識・技能
3	講義・演習	PK／PDに基づく相互作用の回避 (担当：村上・堀切)	PK及びPDに基づき薬物相互作用を回避するための投与設計ができる。	独自	知識・技能
4	講義・演習	薬物投与設計総合演習(1) (担当：村上・堀切)	患者の病態・背景を考慮して最適な用法用量が設定できる。	C15(3)	知識・技能
5	討議	薬物投与設計総合演習(2) 1. 総合討議 2. まとめ (担当：村上・堀切)	患者の病態・背景を考慮して最適な用法用量が設定できる。	A(3)	知識・技能

授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C15(3) 独自	講義・演 習	講義室	2(1)	配布資料、スライド	90×4
A(3)	討議	講義室	1(1)	配布資料、スライド	90×1